

★ 今年度の外来診療日について ★ 【勤労感謝の日:11月23日(木)】 通常診療日とします。

(1) 新任医師のご紹介 (平成29年10月1日付)



★小児科 角田 朋大

10月から小児科で勤務させていただきます角田朋大と申します。子供たちとその家族に寄り添った医療を提供できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

・専門：小児科一般

(2) 医師から皆様へ く 蕁麻疹(じんましん)について

蕁麻疹はかゆみのある赤い斑点(紅斑)、みみずばれのように盛り上がった膨疹が一時的に出たり、引っ込んだりする皮膚の病気です。診察のときに皮疹が出ていないことも多々あります。蕁麻疹の皮疹は同じ場所にある皮疹が24時間続かないのが特徴です。かゆいのでひっかくと掻いた場所が赤く腫れるのを赤色皮膚描記症と呼び、蕁麻疹の特徴的な症状のひとつです。

原因はほとんど(95%くらい)は不明です。たとえば、食事、薬を摂取して、すぐに15分~30分くらいに出現すれば、その食事、薬が原因として疑われます。発汗、運動、食事、入浴、物理的刺激、寒冷、温熱などで誘発されることもあります。特殊なケースとして、食物依存性運動誘発性アナフィラキシーという疾患があり、特定の食物を摂取後、運動すると発症するアナフィラキシーショックをきたすことがあります。

病態はI型アレルギー(即時型アレルギー)が関与していると考えられています。いろいろな刺激で肥満細胞の表面にある免疫グロブリンE(IgE)がお互いの橋渡しをして、肥満細胞からヒスタミンという物質が遊離し、血管透過性の亢進、浮腫を起こし、膨疹が生じると考えられています。蕁麻疹が粘膜に出てくる場合、クインケ浮腫(血管浮腫)と呼ばれています。口びる、まぶた、喉(のど)が腫れたりすることがあり、重症では呼吸困難、アナフィラキシー



というショック状態になって、生命の危険にさらされることもあります。このような場合はステロイドの全身投与が必要になることもあります。

血液検査でRASTという検査で食事アレルギーの検査をすることが可能ですが、検査結果はあくまで参考資料であって、病歴が一番重要です。

治療は一般的には抗ヒスタミン剤という飲み薬が有効です。食事、薬剤との関係が明らかな場合、特定の食事、薬剤を摂取しないようにします。アレルギーが明らかな場合、重症の場合はステロイドの全身投与が有効です。ただ、細菌感染症が関係する場合は抗ヒスタミン剤だけでは効果はなく、抗菌剤の投与が必要になります。抗ヒスタミン剤を中止するとまた、蕁麻疹が出る場合があります。このような慢性蕁麻疹の場合は抗ヒスタミン剤を長期に継続していく必要があります。

皮膚科 部長 黒川 一郎

(3) 明和病院のラジオコーナーが始まります♪

ラジオ大阪(AM1314・FM91.9)にて、10月より毎週土曜日午前7時15分から『桑原あずさの as life(アズライフ)』と題した番組がスタートします。その番組内で、明和病院の職員が出演する“ワンポイントホスピタル”と言うコーナーが設けられます。番組は心とからだの健康をテーマとした内容になっておりますので、是非ご聴取ください。



【10月放送予定】

放送日	出演者	テーマ
7日	院長 山中 若樹	・いつまでも健康でいるには ・医療人として大切にしていることは
14日		・がんを早くみつけて治しましょう
21日	副院長/外科 下部消化管担当部長 柳 秀憲	・高齢者の外科手術
28日	外科 乳腺内分泌担当部長 岸本 昌浩	・乳がんの早期発見とあきらめない 乳がん治療

※番組内容は、都合により予告なく変更する場合があります。

(4) 医療講座(公民館主催)のお知らせ

- ・演 題 : 骨粗鬆症
- ・講 師 : 整形外科 医長 下奥 靖
- ・日 時 : 10月26日(木) 14:00~15:30
- ・場 所 : 鳴尾公民館(Tel47-3838) ※無料(参加自由)



(編集発行人 事務部長 沖田 明弘)